

# 松山城跡(比企郡吉見町)

前方の小山が松山城跡



城郭跡へはここから登って行く





Information board with a green circular logo and text.



松山城跡 見学路出入口

## 史跡 松山城跡

この城跡は、市野川が形成した広大な低地に突き出た丘陵の東端に築かれており、戦国期に幾度も攻防戦が行われた北天竺地方屈指の平山城である。現存する城跡は当時の姿を良好にとどめており、貴重な文化財である。

市野川に突き出た部分から本丸、二の丸、春日丸、三の丸が東西から北東に向けて一直線に並び、その両側に多くの曲輪や平場をもっている。また、兵隊倉庫や物見櫓跡なども残されている。

城の歴史は古く、古代にさかのぼるといえるが、一般的には鎌倉時代末期の新田義貞傳説、北水軍開初期の上田九郎門尉築城、応永二三年（一四一六）ごろの上田上野介築城説などがある。

しかしながら、城郭としての体裁を整えたのは、十五世紀半ば太田氏が江戸・川越・岩槻の各城を築いた時期に近いものと思われる。この城が天下に知られたのは、今から約四五〇年前の天文年間から永禄年間のことであり、城をめぐる上杉氏・武田氏・北条氏の争奪戦は有名である。のち豊臣勢に攻められて、天正十八年（一五九〇）に落城した。歴代の城主上田氏の滅亡後は松平家立の居城となったが、後を継いだ弟忠頼が慶安六年（一六〇二）浜松に転封されたのを最後に廃城となった。

平成二十年に国指定史跡となっている。

## 松山城跡



## 史跡 松山城跡

この城跡は、市野川が形成した広大な低地に突き出た丘陵の東端に築かれており、戦国期に幾度も攻防戦が行われた北武蔵地方屈指の平山城である。現存する城跡は当時の姿を良好にとどめており貴重な文化財である。

市野川に突き出た部分から本丸、二の丸、春日丸、三の丸が南西から北東に向って一直線に並び、その両側に多くの曲輪や平場をもっている。また、兵糧倉跡や物見櫓跡なども残されている。

城の歴史は古く、古代にさかのぼるとさえ言われるが、一般的には鎌倉時代末期の新田義貞陣営説、応永年間初期の上田左衛門尉築城説、応永二三年（一四一六）ごろの上田上野介築城説などがある。

しかしながら、城郭としての体裁を整えたのは、十五世紀半ば太田氏が江戸・川越・岩槻の各城を築いた時期に近いものと思われる。

この城が天下に知られたのは、今から約四五〇年前の天文年間から永禄年間のことであり、城をめぐる上杉氏・武田氏・北条氏の争奪戦は有名である。のち豊臣勢に攻められて、天正十八年（一五九〇）に落城した。歴代の城主上田氏の滅亡後は松平家広の居城となったが、後を継いだ弟忠頼が慶長六年（一六〇一）浜松に転封されたのを最後に廃城となった。

平成二十年に国指定史跡となっている。

現在位置から本丸跡(本曲輪跡)へ、ここでササ郭跡(笹曲輪跡)・太鼓郭跡(太鼓曲輪跡)・物見櫓跡を見て、二ノ丸跡(二ノ曲輪跡)→春日丸跡(三ノ曲輪跡)→三ノ丸跡(曲輪4跡)を見てから、戻って兵糧倉跡→岩室観音堂の右手の平場(惣曲輪跡)と廻ってみることにする/なお、カッコ内は現在の表示名である ※ 水色の所は堀底・谷底部分を表す



それでは登って行こう



本曲輪方面という表示がある





すぐに頂部付近に至る



振り返って見る/左手は笹曲輪跡



この階段を登ったところが本曲輪跡



説明版が置かれている



石碑もある







国指定 一松山城跡群— 菅谷館跡 松山城跡 杉山城跡 小倉城跡

## 松山城跡案内図

**はじめに**

松山城跡群は、江戸時代、幕府と松平らによる関東の鎮撫を目的として築られた城跡群である。松山城跡は、城跡群の中で最も規模が大きく、江戸時代を通じて、松山城跡の中心として機能した。松山城跡は、城跡群の中で最も規模が大きく、江戸時代を通じて、松山城跡の中心として機能した。松山城跡は、城跡群の中で最も規模が大きく、江戸時代を通じて、松山城跡の中心として機能した。

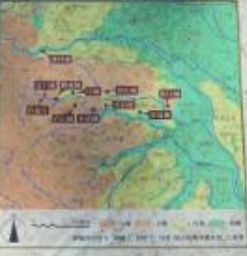
**松山城跡**

松山城跡は、江戸時代、幕府と松平らによる関東の鎮撫を目的として築られた城跡群である。松山城跡は、城跡群の中で最も規模が大きく、江戸時代を通じて、松山城跡の中心として機能した。松山城跡は、城跡群の中で最も規模が大きく、江戸時代を通じて、松山城跡の中心として機能した。



**松山城跡群の概要**

名称	所在地	築城時期	特徴
松山城跡	松山市	江戸時代	城跡群の中で最も規模が大きい
菅谷館跡	松山市	江戸時代	松山城跡の支城
杉山城跡	松山市	江戸時代	松山城跡の支城
小倉城跡	松山市	江戸時代	松山城跡の支城



松山城跡群は、江戸時代、幕府と松平らによる関東の鎮撫を目的として築られた城跡群である。松山城跡は、城跡群の中で最も規模が大きく、江戸時代を通じて、松山城跡の中心として機能した。

松山城跡は、江戸時代、幕府と松平らによる関東の鎮撫を目的として築られた城跡群である。松山城跡は、城跡群の中で最も規模が大きく、江戸時代を通じて、松山城跡の中心として機能した。

松山城跡は、江戸時代、幕府と松平らによる関東の鎮撫を目的として築られた城跡群である。松山城跡は、城跡群の中で最も規模が大きく、江戸時代を通じて、松山城跡の中心として機能した。

松山城跡は、江戸時代、幕府と松平らによる関東の鎮撫を目的として築られた城跡群である。松山城跡は、城跡群の中で最も規模が大きく、江戸時代を通じて、松山城跡の中心として機能した。



これが現在の呼び名である



外郭は消滅してしまったようだ



比企4城跡の位置図



立地(山地~低地)



焼失してしまった神社(新しいもの)の基礎が残っているのだという





左手前方に高まりが見える



「土塁跡」とされる





石碑が立つ



「松山城趾碑」とある



この高まりは古い説明版では物見櫓跡と記されている



こちらから本曲輪跡全体を眺める



さて、先ほどの笹曲輪跡(左手)を見てみよう



ここから前方一帯にかけて笹曲輪跡が展開するようだ



振り返って見る



その右手下を見る





下りてみる



この辺りも笹曲輪跡の一部であろう



さて、本曲輪跡へ戻り笹曲輪跡の左手方向を見る/堀底に沿って左手に太鼓曲輪跡がある



笹曲輪跡の位置から太鼓曲輪跡を見る/堀底の向こう側



さて、これは本曲輪跡から二ノ曲輪跡を見たところ



手前には大きく深い堀底が築かれている



右手の本曲輪跡から左手の二ノ曲輪跡へと堀底を渡る土橋状の道がある



それでは本曲輪跡から前方の二ノ曲輪跡へ進もう





土橋から堀底の右手(南側)を見る



反対側(北側)を見る/段上が二ノ曲輪跡



さて、土橋を渡り切ると上部に「二ノ曲輪方面」の表示がある



その表示の先に二ノ曲輪跡が展開する





二ノ曲輪跡全景



前方に進んで振り返って見る



ここにも小規模な社(新しいもの)があったようだ





これは先ほど本曲輪跡(前方)から渡ってきたところを見る



その右手を見る/堀底の向こうに本曲輪跡がある



さて、これはその反対方向で堀底の向こうには三ノ曲輪跡が見える



二ノ曲輪跡から前方の土橋を右手から左手へと三ノ曲輪跡へ進もう



二ノ曲輪跡から三ノ曲輪跡へ向かう土橋状の道を見る/左手前方に三ノ曲輪跡が見える



土橋から堀底の右手(南側)を見る



反対側(北側)を見る/正面段上が三ノ曲輪跡



土橋を渡り切って登るとこの先が三ノ曲輪跡/手前の表示は戻ると二ノ曲輪跡となる





その前に、右手に折れると「馬出跡」の部分に至る





振り返って見る



さて、前方の三ノ曲輪跡へ進もう







これが三ノ曲輪跡全景



前に進んで振り返って見る





これは先ほど二ノ曲輪跡(右手)から渡ってきたところを見る



これはその反対側で堀底の左手に「曲輪4跡」を見る



ここから前方に曲輪4跡へと土橋を渡る



堀底の向こうが曲輪4跡



土橋から堀底の右手(南側)を見る/左手が曲輪4跡



反対側(北側)を見る/右手が曲輪4跡



曲輪4跡を見上げる



登り切るところが曲輪4跡





左手は「土塁跡」



曲輪4跡の全景



振り返って見る



これは曲輪4跡の更に前方(東側)を見たところ/この先にも平場があるようだ



さて、曲輪4跡から本曲輪跡方向へ戻ることにする/前方は三ノ曲輪跡



本曲輪跡に戻って正面の方向にあるという「食糧倉跡」へと進む



ここを下って行く







正面の平場が食糧倉跡









さて、更にその先へ進もう



この左手にも平場があった





ここで右手に折れて進む





ここにも平場があった



その左側を進む



前方が「惣曲輪跡」らしい



この一帯が惣曲輪跡/この先は「虎口」になっているらしい/右手の表示はここを戻ると本曲輪方面に至ると記されている



左手にある谷底を覗いてみると岩室観音堂が見えた



この谷底は豎堀のようだ



アップで見る



その豎堀を下りて行く





懸造りの岩室観音堂



観音堂から見た堀切



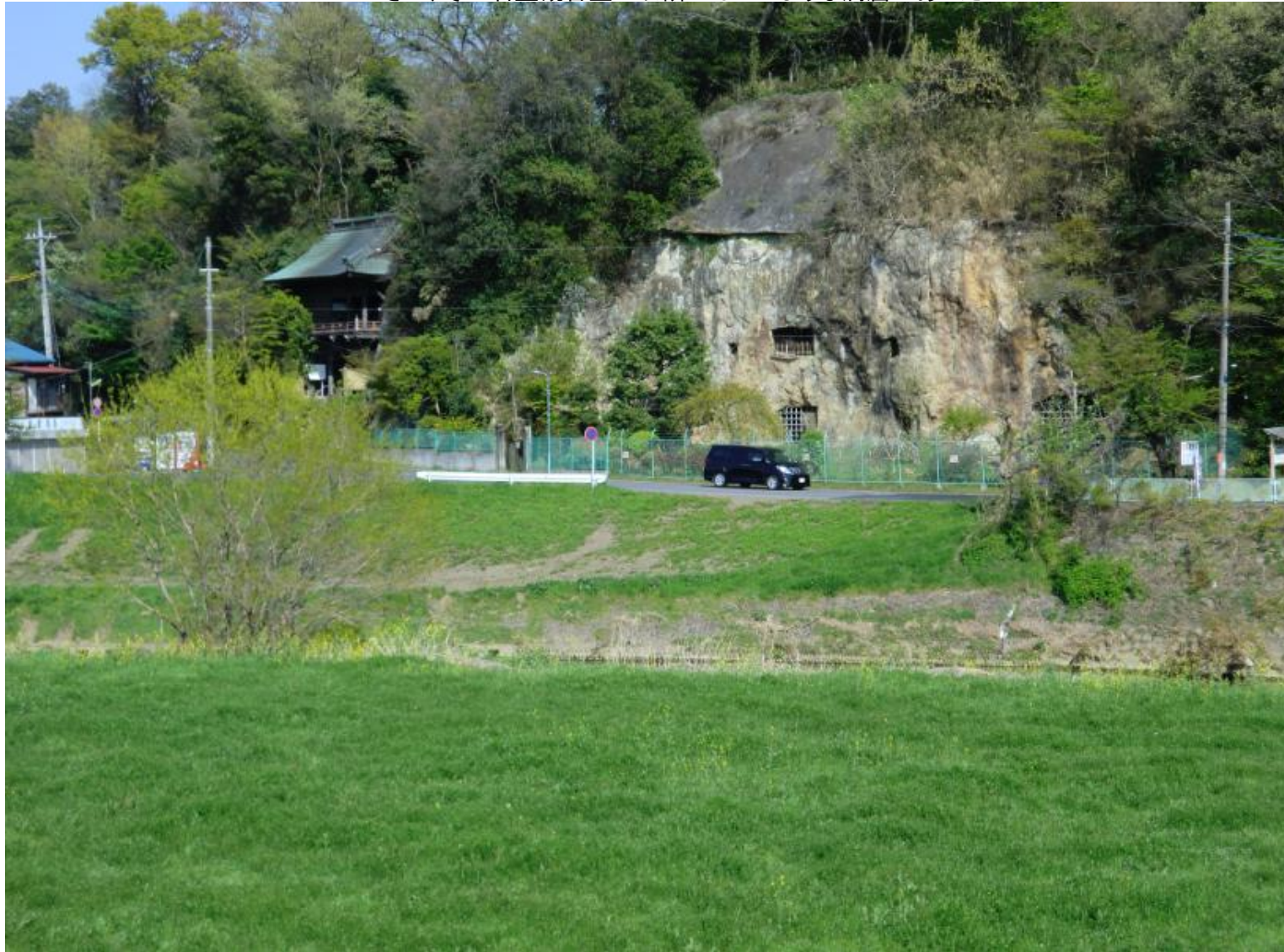
アップで見る



正面から見た岩室観音堂/江戸時代前期の建立



さて、その岩室観音堂の右隣にはこのような洞窟があった



これは「巖窟ホテル」なのだという



参考ホームページ ⇒ <http://manriki.sanpal.co.jp/resort/gankutsu.html>



アップで見る







# 松山城跡

この城跡は、戦国期における山城の姿がほとんどそのままに残されている貴重な文化財である。

市野川に突き出た部分から本城（本丸）、中城（二の丸）、春日丸、三の丸と南西から北東に向って一線上に並び、その両側に多くの曲輪や平場をもっている。この主曲輪群の東方にも第二次的な施設があったが、太平洋戦争後の土地開発で全く原形を失ってしまった。

城史は、古代にさかのぼるとも言われるが、一般的には鎌倉時代末期の新田義貞陣営説、応永年間初期の上田左衛門尉説、応永二十三年（一四一六年）ころの上田上野介説などがある。しかしながら、城郭としての体裁を整えたのは、太田氏が、江戸、川越、岩槻の各城を築いた時期に近いものと思われる。

この城が天下に知られたのは、今から四、五百年前の天文年間から永禄年間のこととて、城をめぐる上杉、武田、北条の合戦は有名である。のち、豊臣勢に攻められ、天正十八年（一五九〇年）落城した。歴代の城主上田氏の滅亡後は、松平家広一万石の居城となったが、松平氏が慶長六年（一六〇一年）浜松に転封されたのを最後に廃城となった。

平成二十年に国指定史跡となっている。

平成十年三月

吉見町・埼玉県



松山城跡地



松山城跡地



近くにはさまざまな石造物があった





これは岩室観音の洞窟にある石造仏



中を覗いてみる



ここから見る松山城趾に沿って流れる市野川/右手前方に吉見町埋蔵文化財センターの建物が見える



右手が吉見町埋蔵文化財センター/左手に吉見百穴が見える



さて、反対に廻って松山城趾の南東側から全体を見てみる

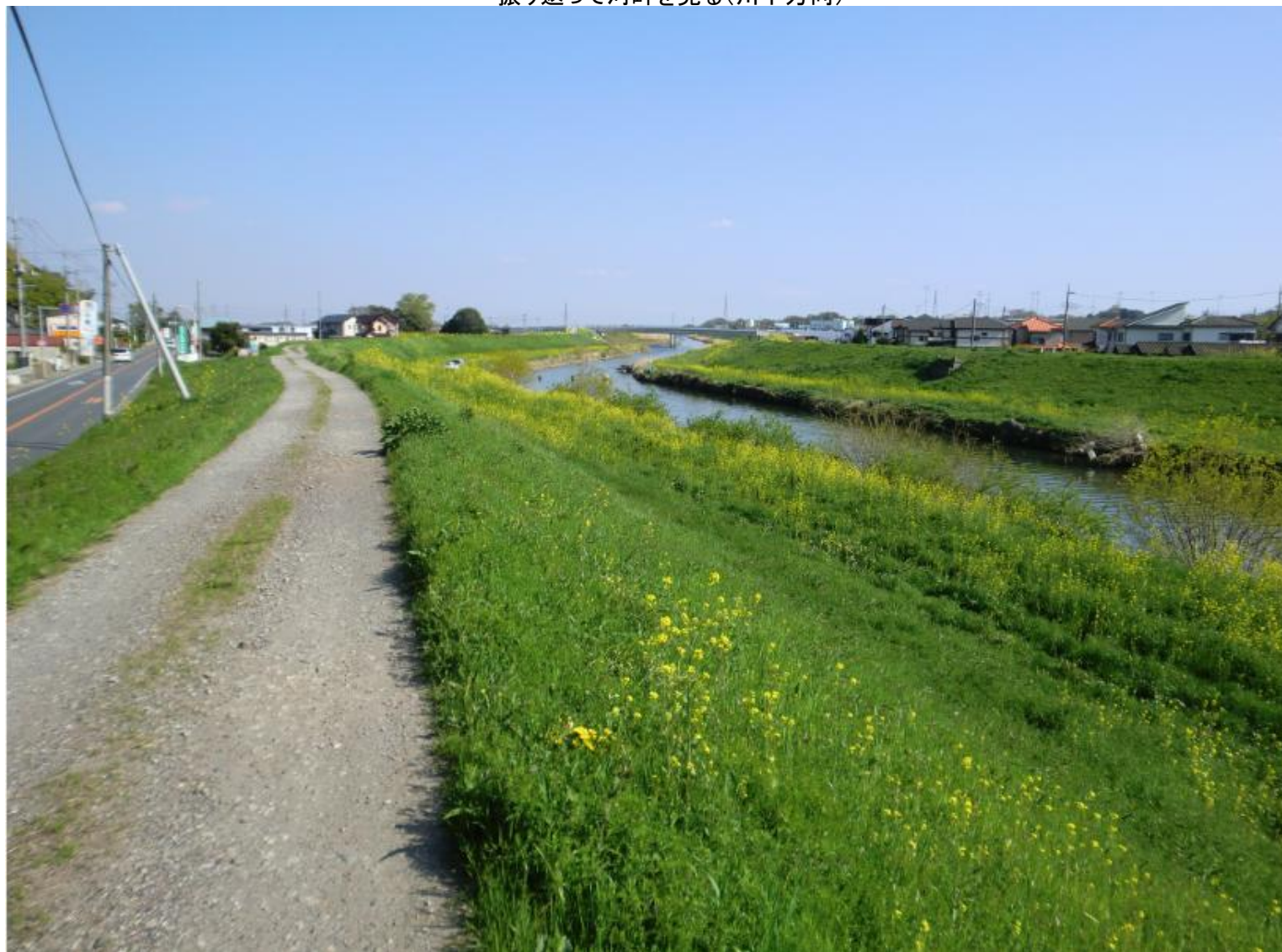




この市野川が自然の要害になっていたという



振り返って河畔を見る(川下方向)



## 参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/002saitama/044matsuyama/matsuyama.html>

<http://www65.tok2.com/home2/yogokun/matuyamays.htm>

<http://www.geocities.jp/sisin9monryu/saitama.kawasima.html>

<http://www5f.biglobe.ne.jp/~mononofu/matuyamazyoumu.html>

<http://www.geocities.jp/tsukayan0112/joukan-saitama/busyuu-matuyama-jou-yosimimati/busyuu-matuyama-jou-yosimimati.html>

<http://www.asahi-net.or.jp/~ju8t-hnm/Shiro/Kantou/Saitama/Matsuyama/index.htm>

<http://hva34.sakura.ne.jp/hikigunn/matuyama/matuyama.html>

<http://www15.ocn.ne.jp/~castle04/matsuyama.html>

[http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12\\_Saitama/matsuyama/index.html](http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/matsuyama/index.html)

